

28 愛防第 94 号
平成 29 年 3 月 29 日

各関係機関・団体長 様

愛媛県病虫害防除所長

発生予察情報の送付について

病虫害発生予察注意報（第 3 号）を下記のとおり発表したので送付いたします。

平成 28 年度 病虫害発生予察注意報（第 3 号）

平成 29 年 3 月 29 日
愛 媛 県

病虫害名 ハダニ類（ナミハダニ）

対象作物 イチゴ

- 1 発生地域 県下全域
- 2 発生程度 やや多～多
- 3 注意報発表の根拠

- (1) 3 月の定点調査における寄生株率は 27.8%と先月（25.5%）から増加し、平年（7.8%）より高く推移しており（図 1）、発生ほ場率は 72.7%と全県的に発生が多くなっている。また、先月には見られなかった高密度（葉縁にクモの巣状の網を張り群生）ほ場が散見され始めている。
- (2) 気象予報（3 月 23 日発表 1 ヶ月予報）では、気温は、平年並か低い、降水量は少ないとされていることから、ハウス内は乾燥傾向となるため発生にはやや助長的である。

4 防除上の注意

- (1) ほ場観察を徹底し、発生が見られる場合は、早急に防除を実施する。今後は、気温上昇に伴いハウス内の気温が上昇し増殖が早まるため注意する。
- (2) 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統の連用を避け、ローテーション散布する。
- (3) 薬剤が葉裏に十分かかるようにするため、下葉を整理する。
- (4) 殺ダニ剤は、ほ場により感受性の状況が異なるため、必ず防除効果の確認を行う（表 1）。
- (5) 薬剤の選択に当たっては、ミツバチへの影響を考慮する（表 2）。
- (6) 一般の殺ダニ剤とのローテーションとして、薬剤抵抗性が発達しない気門封鎖型の薬剤を有効に活用し、ほ場密度を下げる（表 3）。

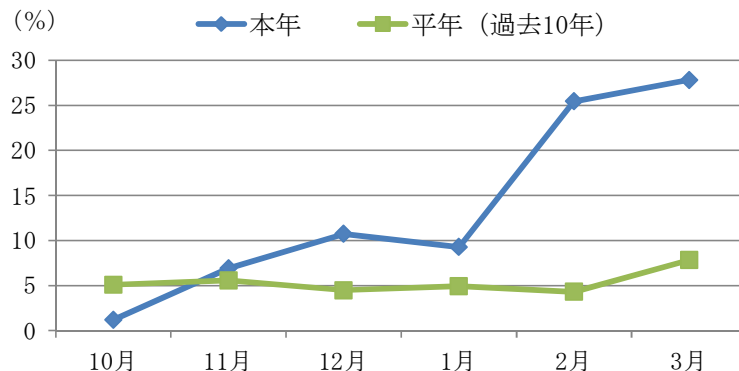


図 1 定点調査におけるハダニ類寄生葉率

表1 イチゴに寄生するハダニ類の薬剤感受性検定結果
(殺成虫)

薬剤名	希釈倍数	補正死亡率(%)					
		西条市	今治市1	今治市2	東温市	宇和島市1	宇和島市2
		ナミ	ナミ	ナミ	ナミ	カンザワ	カンザワ
マイトコーネフロアブル	1,000倍	100	100	100	100	100	100
ダニサラバフロアブル	1,000倍	0	95.8	8.9	3.5	100	100
スターマイトフロアブル	2,000倍	-	97.4	0	11.0	100	100
カネマイトフロアブル	1,000倍	75.1	18.4	3.2	100	100	100
コロマイト乳剤	1,000倍	84.3	25.5	0	81.9	100	100
アファーム乳剤	2,000倍	-	83.4	0	100	100	100
ダブルフェースフロアブル	2,000倍	-	-	-	-	100	100

(殺卵)

薬剤名	希釈倍数	補正死亡率(%)					
		西条市	今治市1	今治市2	東温市	宇和島市1	宇和島市2
		ナミ	ナミ	ナミ	ナミ	カンザワ	カンザワ
マイトコーネフロアブル	1,000倍	20.3	0.9	12.6	41.8	49.0	34.5
ダニサラバフロアブル	1,000倍	45.1	59.6	3.9	0	83.2	69.3
スターマイトフロアブル	2,000倍	-	100	37.3	3.3	100	100
カネマイトフロアブル	1,000倍	89.8	60.5	73.3	74.2	77.7	84.4
コロマイト乳剤	1,000倍	59	43.8	36.9	17.8	51.2	53.6
ダブルフェースフロアブル	2,000倍	-	94.1	25.1	20.4	25.4	61.3

注)ナミ:ナミハダニ、カンザワ:カンザワハダニ

平成27年度愛媛県農林水産研究所試験

表中の数値はハウス単位で採集したハダニの検定結果であり、各地域の薬剤感受性を反映しているものではありません。

表2 イチゴのハダニ類に対する防除薬剤のミツバチへの影響

薬剤名	希釈倍率	収穫前日数 /使用回数	ミツバチへの影響
コロマイト水和剤	2,000倍	前日/2回	1日
スターマイトフロアブル	2,000倍	前日/2回	1日
マイトコーネフロアブル	1,000倍	前日/2回	1日
ダニサラバフロアブル	1,000倍	前日/2回	1日
バロックフロアブル	2,000倍	前日/1回	薬剤が乾けば影響なし
コテツフロアブル	2,000倍	前日/2回	10日
カネマイトフロアブル	1,000倍	前日/1回	ほとんど影響なし
アファーム乳剤	2,000倍	前日/2回	2日
ダブルフェースフロアブル	2,000倍	前日/1回	1日

表3 気門封鎖型農薬の使用法

薬剤名	対象病害虫	希釈倍率	使用時期	使用回数
アカリタッチ乳剤	ハダニ類	1,000~3,000倍	収穫前日まで	-
	うどんこ病	2,000倍		
エコピタ液剤	アブラムシ類、コナジラミ類、うどんこ病	100倍	収穫前日まで	-
	ハダニ類		定植前	-
粘着くん液剤	ハダニ類、アブラムシ類、コナジラミ類	100倍	収穫前日まで	-
ムシラップ	ハダニ類、アブラムシ類、コナジラミ類、うどんこ病	500倍	収穫前日まで	-
フーモン	ハダニ類、アブラムシ類、コナジラミ類、うどんこ病	1,000倍	収穫前日まで	-

使用上の注意

- ①散布液が直接かからないと効果がないため、ムラなく散布液が掛かるよう葉の表裏に丁寧に散布する。
- ②卵に効果がなく残効性も短いため、夏期高温時など害虫の増殖やほ場外からの飛び込みが活発なときには、5~7日程度の間隔での連続2回散布や他剤とのローテーション散布を行う。
- ③夏期高温時など一般に葉害が生じやすい条件では使用を避ける。
- ④葉害が発生する恐れがあるため、初めて利用する作物、品種では試しがけを行う。
- ⑤展着剤の加用は必要ない。
- ⑥散布量は対象作物の生育段階、栽培形態および散布方法に合わせ調節する。
- ⑦散布液の調整に際してはよくかき混ぜ、調整後はなるべく早く使用し、使い切る。